

創造的に考え、 気づきの質を高める生活科の授業づくり

— 「『見通す』学習活動」を通して —

令和7年度 神奈川県立総合教育センター
長期研究員 花形 皓天(二宮町立二宮小学校)

【研究の概要】

これからの時代に求められる資質・能力を身に付けるために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが求められている。

一方で、生活科における深い学びである「気づきの質の高まり」に関して、質的に高める指導が十分に行われていないという課題が指摘されている。

さらに、岡崎は、深い学び(気づきの質の高まり)の実現に向けた今後の生活科実践における課題を挙げている。「創造的に考える」授業場面をどのように設定するのか、その具体的提案が求められている。

そこで本研究では、「『見通す』学習活動」を明確にし、そこでの児童の気づきを次の「試す」「工夫する」学習活動につなげることが、児童の創造的に考え、気づきの質を高めることに有効かを明らかにすることを目的とした。

実践の結果、「『見通す』学習活動」の中で、児童の「思い描く」「予想する」「振り返る」という三つの思考に着目し、次の「試す」「工夫する」学習活動につなげることが、児童が創造的に考え、気づきの質を高めることに一定程度効果があると分かった。

以上のことから、本研究で示した「『見通す』学習活動」が児童の気づきの質を高めるために一定程度有効であることを検証することができたと言える。

生活科が目指す児童の姿

自立し生活を豊かにしていく

思いや願いの実現

生活科における気づきの質を高める

授業づくり

無自覚→自覚

個別→関連

対象→自分自身

創造的に考える

「試す」「工夫する」

学習活動

「『見通す』学習活動」

思い描く

予想する

振り返る

「深い学び」(気づきの質の高まり)を実現するために、「**創造的に考える**」授業場面を設定し、児童の**気づきの質を高める**具体的な提案が求められている。

気づきを質的に高める指導が求められている。

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編』

「深い学び」の実現するために、「**創造的に考える**」授業場面について具体的な提案が求められるだろう。

(岡崎 2020)

はじめに

「小学校学習指導要領(平成 29 年告示)」では、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けるために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが求められている(文部科学省 a 2017 p. 22)。

生活科における「深い学び」については、『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 生活編』(以下、『解説』という)で、「生活科においては、気付きの質の高まりが深い学びであると捉えることができる。」(文部科学省 b 2017 p. 77)と示されている。

この気付きの質の高まりについて、これまでの生活科の課題として、学習活動が体験だけで終わり、活動や体験を通して得られた気付きを質的に高める指導が十分に行われていないという指摘があった(文部科学省 b 2017 p. 69)。

このことに対し、『解説』では、学習内容、学習指導の改善・充実として、「具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするようにするため、活動や体験を通して気付いたことなどについて多様に表現し考えたり、『見付ける』『比べる』『たとえる』『試す』『見通す』『工夫する』などの多様な学習活動を行ったりする活動を重視すること」(文部科学省 b 2017 p. 7)と示されている。

さらに、「考える」について、『解説』では、「『考える』とは、児童が自分自身や自分の生活について、見付ける、比べる、たとえるなどの学習活動により、分析的に考えることである。また、試す、見通す、工夫するなどの学習活動により、創造的に考えることである。」(文部科学省 b 2017 p. 15)と記されている。

この中でも「試す」「見通す」「工夫する」学習活動により、「創造的に考える」ことについては、現行学習指導要領で新たに盛り込まれたことであり、一層の充実を図り、深い学びを実現することが期待されている(文部科学省 b 2017 p. 69)。

岡崎(2020)は、深い学び(気付きの質の高まり)の実現に向けた今後の生活科実践における課題として、「『創造的に考える』授業場面をどのように設定するのか、その具体的提案が求められるだろう。」(岡崎 2020 p. 36)と述べている。

筆者のこれまでの実践においても、児童が「創造的に考える」ことを促す手立てが不足していた。

そこで本研究では、「創造的に考える」授業場面の具体的な提案として、「『見通す』学習活動」を明確にし、そこでの児童の気付きを「試す」「工夫する」学習活動につなげることで、児童が創造的に考え、気付きの質を高めることに有効であるかを検証した。

研究の目的

「『見通す』学習活動」を明確にし、そこでの児童の気付きを「試す」「工夫する」学習活動につなげることは、児童が創造的に考え、気付きの質を高めるために有効か明らかにする。

研究の内容

1 理論研究

(1) 生活科における「気付き」について

『解説』では、生活科でいう「気付き」について、「対象に対する一人一人の認識であり、児童の主体的な活動によって生まれるものである。そこには知的な側面だけではなく、情意的な側面も含まれる。」(文部科学省 b 2017 p. 12)と記されている。

さらに、「自分が『あれっ』『どうして』『なるほど』などのように何らかの心の動きを伴って気付くものであり、一人一人に生まれた気付きは吟味されたり一般化されたりしていないものの、確かな認識へとつながるものとして重要な役割をもつ。」(文部科学省 b 2017 pp. 12-13)とも記されている。

(2) 生活科における「気付きの質の高まり」について

『解説』では、「無自覚だった気付きが自覚されたり、一人一人に生まれた個別の気付きが関連付けられたり、対象のみならず自分自身についての気付きが生まれたりすること」(文部科学省 b 2017 p. 13)と示されている。

例えば、児童はミニトマトを栽培・観察する単元の中で、日々の水やりや観察記録を作成することを通じて、葉の匂いや色、手触り、花の形の特徴などに気付く。このように、児童が対象に繰り返し関わることで、対象への気付きが自覚される。

さらに、他の児童の気付きを捉え、「ミニトマトの花の形は、他の植物の花の形と違い、星の形に似ている。」と児童の中で、個別の気付きが関連付けられる。

最終的に、単元を通して、責任を持ってミニトマトを世話することができたことを実感したり、他の児童の協力があつたからミニトマトの世話がうまくいったことに気付いたりする。また、育てたミニトマトへの愛着から、自分の興味・関心を持っていることを自覚する。さらに、児童は対象を観察する力が高まったことや粘り強くミニトマトを世話することができたことに気付く。このように、対象から視点を広げ、「集団における自分の存在」や「自分のよさや得意としていること」、「興味・関心を持っていること」、「自分の心身の成長」に関することなど、対象のみならず自分自身についての気付きが生まれる。

以上のことから本研究では、

「気付きの質の高まり」とは、

- ・無自覚だった気付きが自覚されること
- ・一人ひとりに生まれた個別の気付きが関連付けられること
- ・対象のみならず自分自身についての気付きが生まれること

である。

と定義した。

(3) 生活科における「考える」について

『解説』では、『考える』とは、児童が自分自身や自分の生活について、見付ける、比べる、たとえるなどの学習活動により、分析的に考えることである。また、試す、見通す、工夫するなどの学習活動により、創造的に考えること(文部科学省 b 2017 p.15)と示されている。

さらに、生活科における「考える」と学習活動の関係については、「低学年の児童は、活動と思考が一体的であり、その活動は総合的なものである」(文部科学省 b 2017 p.74)と記載されている。

以上のことから本研究では、「創造的に考える」ために、「試す」「見通す」「工夫する」学習活動の設定が重要だと考えた。

(4) 生活科における「見通す」について

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校生活)(以下、「指導と評価の一体化」という)で記載されている「思考・判断・表現」に関する評価規準(例)では、「見通す」学習活動において期待する思考として「思い描きながら」「予想しながら」「振り返って」と示されている(国立教育政策研究所 2020 p.41)。

「思い描く」について、「指導と評価の一体化」では、単元「あきとあそぼう」の思考・判断・表現の評価規準において、「楽しみたい遊びを思い描きながら、校庭や公園の秋の自然の中から遊びに使う物を選んでいく。」(国立教育政策研究所 2020 p.59)と示されている。このことから、「思い描く」は、児童が「やりたいことを選ぶ」と捉えることができる。

「予想する」について、『解説』では、虫を学習対象として取り扱った単元での児童の発話として、「コオロギの好きな場所は、暗くてじめじめしたところかもしれない。」(文部科学省 b 2017 p.95)とコオロギの生息場所を予想している文が記載されている。「～かもしれない。」という表現は、児童自身がまだはっきり分かっていない状態であることを表している。さらに「暗くてじめじめしたところ。」という児童の発話から児童のこれまでの知識や経験が根拠となっていることが分かる。よって、「予想する」は、「まだはっきり分かっていないことについて、これまでの知識や経験から想像する」と捉えることができる。

「振り返る」について、「指導と評価の一体化」では、単元「かぞくのここにこ ふやし隊」の思考・判断・表現の評価規準において、「自分の作戦を振り返りながら、継続して取り組みたいことを決めている。」(国立教育政策研究所 2020 p.65)と示されている。「自分の作戦」とは、児童がそれまで実践してきた「前の活動」そのものを指す。よって、「振り返る」は、「前の活動から継続して取り組みたいことを決める。」と捉えることができる。

以上のことから本研究では、

『見通す』学習活動とは、

- ・「思い描く」…やりたいことを選ぶ
- ・「予想する」…まだはっきり分かっていないことについて、これまでの知識や経験から想像する
- ・「振り返る」…前の活動から継続して取り組みたいことを決める

という思考が行われる学習活動である。

と定義した。

2 研究の仮説

以上を踏まえ、本研究の仮説を以下のように設定した。

『見通す』学習活動の中で、児童が自らの気付きを「思い描く」「予想する」「振り返る」という三つの思考ごとに着目し、次の「試す」「工夫する」学習活動につなげることで、児童は創造的に考え、気付きの質を高めるだろう。

3 検証の視点

仮説に基づいて、次のような児童の姿を検証の視点として設定した。

- (1) 「思い描く」「予想する」「振り返る」という思考を意識して、『見通す』学習活動を行っていたか。
- (2) 『見通す』学習活動での気付きを次の「試す」「工夫する」学習活動につなげ、気付きの質を高めていたか。

4 検証授業

『解説』では、「内容(6)自然や物を使った遊び」における「動くおもちゃを作る遊び」について、「ここで大切にしたいのが、『見付ける』『比べる』『たとえる』『試す』『見通す』『工夫する』などの学習活動である。」(文部科学省 b 2017 p.42)と全ての学習活動が示されている。

本研究における検証対象の児童は、第一学年で単元

「なつがやってきた」や単元「たのしいあきいっぱい」、単元「ふゆをたのしもう」でドングリなどの素材そのものへの気付きを意図した活動を行ってきた。

第二学年では、単元「ぐんぐん そだて わたしの 野さい」の中で、対象をじっくり見守り、工夫して働きかける活動を行った。単元「どきどき わくわく まちたんけん」では、学校から空間を広げ、町にある商店街に出向き、店の人にインタビューを行った。インタビューを通して、相手を意識しながら、対象に対する気付きを意図した活動を行った。

本単元までの活動を踏まえ、「お気に入りのおもちゃをつくって、みんなとあそぼう」という単元を設定した。この単元では、他の児童と遊ぶという相手意識、目的意識を持ちながら、自分から対象に繰り返し、働き掛けることを行う。第一学年に加え、素材そのものや動力源を基に動くおもちゃを作ることで、つくるために必要な材料は何かと考える。さらに、身の回りの自然物から身近な物へと意識が広がる。そして、材料を組み合わせたたり、粘り強く工夫を繰り返したりすることで、対象に関わろうとする力が育つとともに、動くおもちゃを使った遊びの面白さ、自然の不思議さへの気付きの質が高まっていく。

以上のことから、本単元は、検証に適していると考えた。

(1) 概要

【期 間】 令和7年9月2日(火)～9月30日(火)

【対 象】 二宮町立二宮小学校 第二学年(31人)

【教 科】 生活科

【単元名】 「お気に入りのおもちゃをつくって、みんなとあそぼう」

【時 数】 12時間(45分授業)

【授業者】 花形 皓天(筆者)

【単元目標】

身近にある物を使って、動くおもちゃをつくる活動を通して、よりよく動くように改良したり、もっと楽しくなるように遊び方やルールを工夫したりして、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなで見ながら遊びを創り出そうとすることができるようにする。

【評価規準】

- ・身近にある物を使って、動くおもちゃをつくる活動を通して、遊びやおもちゃをつくる面白さや、自然の不思議さに気付いている。(知識・技能)
- ・身近にある物を使って、動くおもちゃをつくる活動を通して、おもちゃがよりよく動くように改良したり、もっと楽しくなるように遊び方を変えたりするなど、工夫しておもちゃや遊びをつくっている。(思考・判断・表現)
- ・身近にある物を使って、動くおもちゃをつくる活動を通して、みんなで見ながら遊びを創り出そう

としている。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 単元の概要(表1参照)

表1 検証授業の単元計画

時間	〈小単元名〉・学習活動
1	〈いろいろなおもちゃであそぼう〉 ・動くおもちゃで遊びながらおもちゃが動く「ヒミツ」を探す。 ・自分のつくりたい動くおもちゃの設計図を描く。
2	〈うごくおもちゃをつくろう①〉 ・遊びながら自分のお気に入りの動くおもちゃをつくる。 ・教師と一緒に「やってみタイム」「かんがえタイム」を行う。
3・4	〈うごくおもちゃをつくろう②③〉 ・おもちゃづくりの続きをする。 ・もっとよくおもちゃが動くように話し合う。 ・「やってみタイム」「かんがえタイム」を行う。
5	〈もっとよくうごくおもちゃをつくろう①〉 ・遊びながらもっとよく動くおもちゃをつくる。 ・「やってみタイム」「かんがえタイム」を行う。
6・7	〈もっとよくうごくおもちゃをつくろう②③〉 ・遊びながらもっとよく動くおもちゃをつくる。 ・「やってみタイム」「かんがえタイム」を行う。
8・9	〈みんなと楽しくあそぼう①②〉 ・遊びながらみんなが楽しめる遊び方やルールを考え、遊ぶ準備をする。 ・「やってみタイム」「かんがえタイム」を行う。
10・11	〈みんなと楽しくあそぼう③④〉 ・みんなと遊ぶ。 ・「やってみタイム」「かんがえタイム」を行う。
12	〈みんなと楽しくあそぼう⑤〉 ・動くおもちゃづくりやおもちゃ遊びをつくったことについて振り返る。

(3) 本単元における学習対象について

本単元では、主に

- ・風の力を使ったおもちゃ
- ・ゴムの力を使ったおもちゃ
- ・磁石の力を使ったおもちゃ など

を取り扱った。

(4) 本單元における手立てと教師の支援

児童が『見通す』学習活動での気づきを「思い描く」「予想する」「振り返る」の思考ごとに着目し、表現できるワークシートを手立てとして講じた。ワークシートは、授業の終盤に取り組んだ。

ワークシートには、『見通す』学習活動の思考に沿って、次の三つの項目を設けた。

<ul style="list-style-type: none"> ・「思い描く」…次の時間は何をしますか。 ・「予想する」…次の時間にすることは、どうしたらうまくいくと思いますか。 ・「振り返る」…今日の活動でおもちゃについて気付いたことは何ですか。
--

児童が三つの項目で思考を表現することを「やってみタイム」「かんがえタイム」と称し、設定した。

教師の支援として、三つの項目で表現された児童の気づきを次の「試す」「工夫する」学習活動につなげる指導を行い、気づきの質の高まりを促した。また、ワークシートに記入する際、十分に表現できない児童については、上記の項目に沿って話を聞いた。

5 検証結果と考察

所属校第二学年の児童 31 人を検証対象とした。(初め、32 人が検証対象だったが、事後アンケート調査を欠席した児童 1 名を除いた。)

- ・ワークシートの記述
- ・活動の様子
- ・事前事後アンケート調査の結果

以上のことを基に検証を行った。

事前事後アンケート調査では、『見通す』学習活動の思考である「思い描く」「予想する」「振り返る」についての設問と「試す」「工夫する」学習活動についての設問を設定した(表 2)。

表 2 アンケート調査の項目

Q1 「思い描く」についての設問	生活科の学習の中で、「これから何をするか」自分なりのめあて(見通し)を持って取り組んでいますか。
Q2 「予想する」についての設問	生活科の学習の中で、まだやっていないことでも「こうなるかも!」と「よそう」して考えることがありますか。
Q3 「振り返る」についての設問	生活科の学習の中で、活動の終わりに自分の学習を振り返り、次の活動で何をするか自分なりのめあてを考えていますか。
Q4 「試す」学習活動についての設問	生活科の学習の中で、「これならうまくいくかも」と思ってアイデアを試したことがありますか。

Q5 「工夫する」学習活動についての設問	生活科の学習の中で、「もっとよくなるには、どうしたらいいのだろうか?」と考え、自分で工夫したことはありますか。
----------------------	---

(1) 「思い描く」「予想する」「振り返る」という思考を意識して、『見通す』学習活動を行っていたか

図 1、図 2、図 3 のグラフは、本研究における『見通す』学習活動である「思い描く」「予想する」「振り返る」の思考ごとの設問(4 件法)に対する児童の回答の割合である。

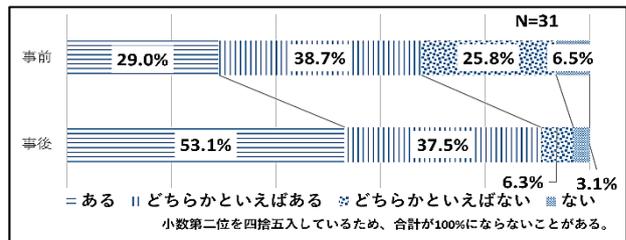


図 1 「思い描く」についての設問への児童の回答

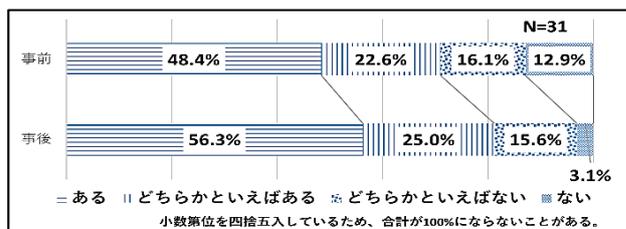


図 2 「予想する」についての設問への児童の回答

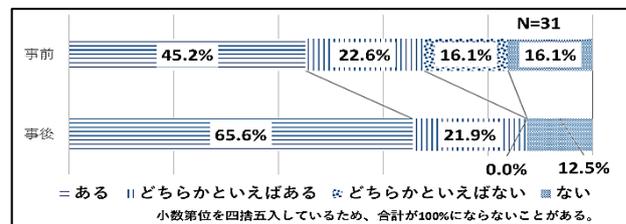


図 3 「振り返る」についての設問への児童の回答

事後アンケート調査では、「思い描く」「振り返る」についての設問に対し、約 9 割の児童が肯定的に回答した。

「予想する」についての設問では、約 8 割の児童が肯定的に回答した。

事後アンケート調査の結果から、児童が「思い描く」「予想する」「振り返る」という思考を意識していたことが分かった。

(2) 『見通す』学習活動での気づきを次の「試す」「工夫する」学習活動につなげ、気づきの質を高めていたか

検証対象全体が『見通す』学習活動での気づきを「思い描く」「予想する」「振り返る」の思考ごとに着目し、次の「試す」「工夫する」学習活動につなげ、気

付きの質を高めていたかについて、ワークシートの記述やアンケート調査の結果、児童の活動の様子から検証した。さらに、気付きの質の高まりが顕著だった児童A・児童Bについても検証を行った。

ア 検証対象全体

図4、図5のグラフは、本研究における「創造的に考える」である「試す」「工夫する」学習活動についての設問(4件法)に対する児童の回答の割合である。

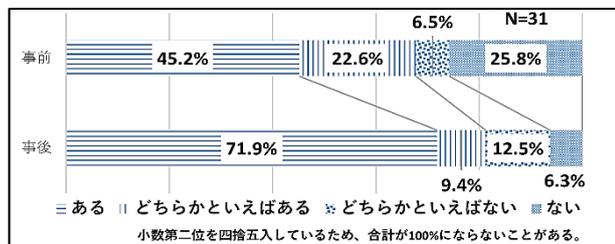


図4 「試す」学習活動についての設問への児童の回答

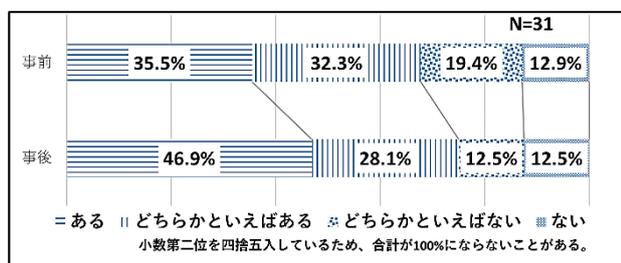


図5 「工夫する」学習活動についての設問への児童の回答

「試す」学習活動についての設問に対する肯定的回答が67.8%から81.3%へ、「工夫する」学習活動についての設問に対する肯定的回答が67.8%から75.0%へと変容していた。

先述した通り、『見通す』学習活動』についての設問に対する児童の回答も肯定的に変容していることから、『見通す』学習活動』で行った手立てが児童の「試す」「工夫する」学習活動を促したと推察した。

次に、「試す」「工夫する」学習活動を通して、児童にどのような気付きの質の高まりがあったかに関して、気付きの質の高まりの項目ごとにワークシートの記述や事後アンケート調査の記述から見取り、検証を行った(表3)(表4)(表5)。

表3 無自覚だった気付きが自覚された児童の例
(原文の意味を変えない範囲で改編、下線は筆者)

※下線は気付きの質の高まりを表している。

	児童のワークシートの記述
「思い描く」 「予想する」	・風の力を使ったおもちゃ(以下、「ヨットカー」という)を速く動かすために、後ろに付けている風を受けるトレイを大きくする。

「振り返る」	・「ヨットカー」の後ろに付けた <u>トレイを大きくしたらたくさん進んだ。</u>
--------	---

風を受けるトレイの「大きさ」に着目している記述から、対象への気付きが自覚されていることが分かる。

表4 個別の気付きが関連付けられた児童の例
(原文の意味を変えない範囲で改編、下線は筆者)

※下線は気付きの質の高まりを表している。

・友達と「パッチンジャンプ」でどちらが高く跳ぶかやってみたら、友達のほうが高く跳んだ。 牛乳パックの種類を変えることで、友達の「パッチンジャンプ」が高く跳んでいることに気付いた。
--

表4から、児童は他の児童が「パッチンジャンプ」の材料を変えていることから、自分と他者の気付きを関連付けていることが分かる。

表5 対象のみならず自分自身についての気付きが生まれた児童の例
(原文の意味を変えない範囲で改編、下線は筆者)

※下線は気付きの質の高まりを表している。

・ <u>みんなで力を合わせて</u> 一年生が喜んでくれるように磁石の力を使ったおもちゃ(以下、「めいろ」という)の遊び場づくりを頑張った。

この児童は、第8・9時に一年生と動くおもちゃで遊ぶイベント(おもちゃランド)で、一年生を楽しませたいという思いを持って活動をした。他の児童と話し合いながら、難易度別の「めいろ」の遊び場をつくる工夫をした。

他の児童と協力して遊び場を完成させることができ、集団における自分の役割に気付いた。

イ 気付きの質の高まりが顕著であった児童A

児童Aは、高く跳ぶゴムの力を使ったおもちゃ(以下、「びよんコップ」という)をつくって遊びたいという思いや願いを基に活動をし、気付きの質を高めた(表6)。

表6 児童Aのワークシートの記述内容
(原文の意味を変えない範囲で改編、下線・括弧は筆者)

※下線は気付きの質の高まりを表している。

時間	児童のワークシートの記述
3・4	「思い描く」「予想する」 ・「びよんコップ」に輪ゴムを3重につけている絵。 <u>輪ゴムをたくさんつける。</u>
5	「振り返る」 ・輪ゴムは多くてもあまり跳ばないと思った。 <u>輪ゴムがつまる。</u> 「思い描く」「予想する」 ・今日より高く跳ぶと良いと思った。 <u>輪ゴムを少なくする。</u>

6・7	「振り返る」 ・コップを1こ増やしたらとても跳んだ。 押されて跳んだ。
-----	---

児童Aは、第2時まで「びよんコップ」の動きと材料との関係について、無自覚な状態で進めていた。教師が、どうして「びよんコップ」が動くのかを問い掛けることで、児童Aは「びよんコップ」の動きと輪ゴムとの関係に気付いた。児童Aはそのことを踏まえ、第3・4時で高く跳ぶ「びよんコップ」をつくりたいと思いを持ち、「輪ゴムをたくさんつける」とうまくいくと予想し、ワークシートに表現した。

第5時で児童Aは、前時の予想を基に、輪ゴムの「数」を増やし、「試す」「工夫する」学習活動を行った。児童Aは、第5時の「試す」「工夫する」学習活動を振り返り、「輪ゴムが多くてもあまり跳ばない。輪ゴムがつまるから。」と気付いた。「思い描く」「予想する」については、「今日より高く跳ばしたいからゴムを少なくする」と表現していることから、「振り返る」が「思い描く」「予想する」につながっていることが分かる。児童Aは、輪ゴムの「数」と「びよんコップ」の動きの関係性に気付いていたため、教師が認め、次の「試す」「工夫する」学習活動につながる指導を行った(図6)。

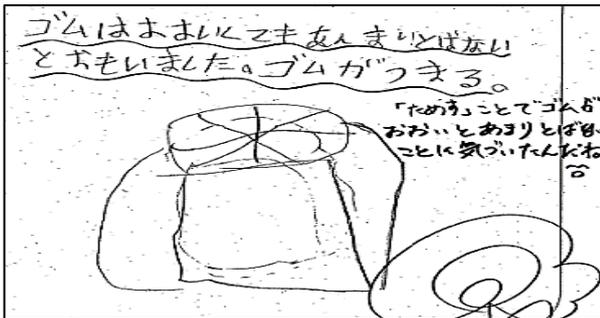


図6 児童Aのワークシート

さらに、児童Aや多くの児童が材料の「数」に着目することに留まっていたため、視点を広げるために、第6・7時の導入で、おもちゃづくりの工夫点を共有する時間(レベルアップコーナー)を設けた(図7)。

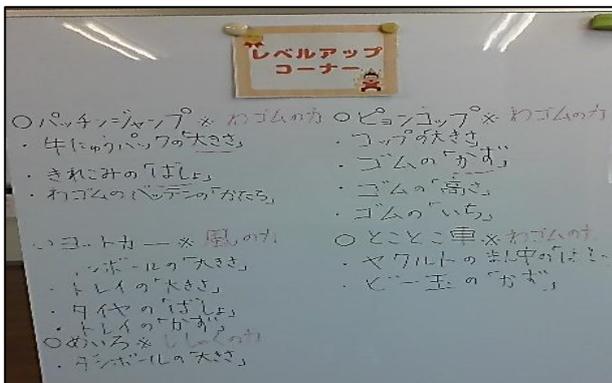


図7 レベルアップコーナー

第6・7時では、第5時で立てた予想を基に、輪ゴムの「数」を減らし、「試す」「工夫する」学習活動を行った。活動の中で児童Aは、レベルアップコーナー

や友達の活動を参考にコップの「数」を増やすことで、「びよんコップ」が高く跳んだ。第6・7時の『見通す』学習活動で児童Aは、活動を振り返り、他の児童の個別の気付きと自己の気付きを関連付けていた。

ウ 気付きの質の高まりが顕著であった児童B

児童Bは、速く動く「ヨットカー」をつかって遊びたいという思いや願いを基に活動をし、気付きの質を高めた(表7)。

表7 児童Bのワークシートの記述

(原文の意味を変えない範囲で改編、下線・括弧は筆者)

※下線は気付きの質の高まりを表している。

u>

時間	児童のワークシートの記述
3・4	「思い描く」「予想する」 ・タイヤごとの具体的な設計図。タイヤをピッタリにして回るようにしたい。
5	「振り返る」 ・「ヨットカー」を速くするために、 <u>風を受けるトレイを大きくした。前よりも速くなった。</u> 「思い描く」「予想する」 ・今回は、トレイを大きくしてみたけど、もっと速くしたい。風をもっと通るようにしたい。
6・7	「振り返る」 ・「ヨットカー」が速くなるように <u>トレイを2こ付けた。とても速くなった。</u>

児童Bは、第2時まで風の力を使ったおもちゃ(以下、「ヨットカー」という)が思ったように動かなかった。

児童Bは、タイヤが回っていないことに気付いていなかったため、教師と一緒にタイヤが回っている他の児童の「ヨットカー」の観察を行った。観察を通して、児童Bはタイヤの回り方と「ヨットカー」の動きの関係に気付き、タイヤを回すための設計図を思い描き、タイヤをピッタリにすると「ヨットカー」が動くことと予想し、ワークシートに表現している(図8)。

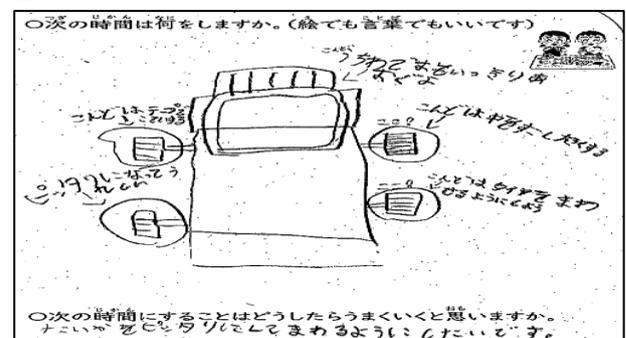


図8 児童Bのワークシート

第5時で児童Bは、前時の予想を基に、「試す」「工夫する」学習活動を行うことで、タイヤが回り、「ヨットカー」が動くようになった。「ヨットカー」が動くことで児童Bは、風の力と「ヨットカー」の動きの関係

について気付いた。児童Bは、第5時の「試す」「工夫する」学習活動を振り返り、「風を受けるトレイを大きくしたら前よりも速くなった。」と「ヨットカー」の動きと風を受けるトレイの「大きさ」の関係に気付いた。

「思い描く」「予想する」については、「ヨットカー」を速くするためにより風の力を使いたいと表現していることから、「振り返る」が「思い描く」「予想する」につながる起点となっていることが分かる。児童Bが「試す」「工夫する」学習活動からトレイの「大きさ」と「ヨットカー」の動きの関係性に気付いたため、教師が認め、次の「試す」「工夫する」学習活動につなげる指導を行った(図9)。

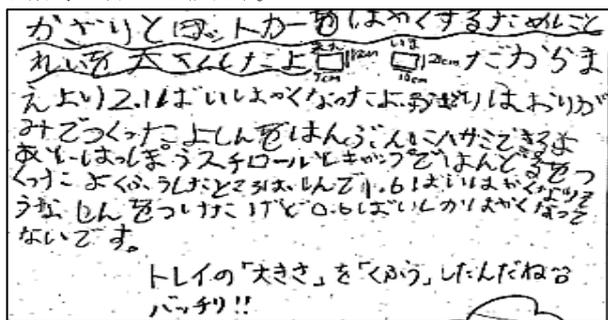


図9 児童Bのワークシート

児童Aは、第6・7時の「試す」「工夫する」学習活動を振り返り、風を受けるトレイを二つ付けることで「ヨットカー」の動きが速くなると、「ヨットカー」の動きとトレイの「数」の関係に気付いた。

以上の対象全体に対する検証と児童A・児童Bの事例の検証から、児童が『見通す』学習活動での気付きを「思い描く」「予想する」「振り返る」の思考ごとに着目し、次の「試す」「工夫する」学習活動につなげることは、気付きの質を高めることに一定程度有効であったといえる。

研究のまとめ

1 研究の成果

本研究では、「『見通す』学習活動」を明確にし、そこでの児童の気付きを「試す」「工夫する」学習活動につなげることは、児童が創造的に考え、気付きの質を高めるために有効であることを示すことができた。

児童が『見通す』学習活動でワークシートに表現したことに対し、教師が次の「試す」「工夫する」学習活動につながるように指導をした。さらに、「試す」「工夫する」学習活動の際に、児童が対象の様々な特徴に気付くように、教師が声を掛け関わることで、児童は気付きの質を高めた。

以上のことから本研究における『見通す』学習活動

- 1 指導主事
- 2 指導担当主事
- 3 教育指導員

は、気付きの質の高まりに一定程度有効であったといえる。

2 研究の課題と今後の展望

本実践を通して、以下の点が課題として明らかになった。

第一に、児童の中には、「試す」「工夫する」学習活動の中で、気付きの質の高まりが十分でない児童がいた。児童一人ひとりに応じた教師の声掛けや児童からの聞き取り、環境構成の工夫など、気付きの質の高まりにつながる具体的提案が必要であった。さらに、幼児教育で身に付けた力を生活科での気付きにつなげ、中学年以降の各教科等の土台となるよう、接続をより意識した児童への関わりも必要だと考える。

第二に、児童の中には、気付きの質が高まってもワークシートに表現することが十分でない児童がいた。教師が児童一人ひとりの様子を観察することに加え、写真や動画を用いて、児童の発言や表情などから気付きの質の高まりを見取る必要がある。

今後も、気付きの質の高まりを促す、児童一人ひとりに応じた教師の指導の在り方が求められるだろう。

おわりに

最後に、二宮町立二宮小学校の教職員・児童の皆様をはじめ、本研究に御協力いただいたすべての皆様に深く感謝申し上げます。

【指導担当者】

水越 茜¹ 安池 翼² 吉田 真弓³

引用文献

国立教育政策研究所 2020 『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校生活)』東洋館出版社

文部科学省 2017a 「小学校学習指導要領(平成29年告示)」東京書籍株式会社 p.22

文部科学省 2017b 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編』東京書籍株式会社

岡崎誠司 2020 『『深い学び』を実現する生活科の授業構成-第一学年単元『あきのたからものであそぼう』の場合-』(『富山大学人間発達科学部紀要』第15巻第1号)p.36

[file:///C:/Users/hAnAgAtA-c74/Downloads/01-03_15-1_pAge033to040%20\(15\).pdf](file:///C:/Users/hAnAgAtA-c74/Downloads/01-03_15-1_pAge033to040%20(15).pdf)

(2026年1月19日取得)

参考文献

久野弘幸 2017 「平成29年版 小学校 新学習指導要領ポイント総整理 生活」東洋館出版社

生活科学習指導案

日時 令和7年9月12日(金)
※研究授業は、12時間中の第5時

学校名 二宮町立二宮小学校

学級 2年2組 33名
たあくなか級 3名

場所 第2音楽室(西棟2階)

授業者 神奈川県立総合教育センター
教育人材育成課キャリア開発班
長期研究員 花形 皓天

1 単元名 「お気に入りのおもちゃをつかって、みんなと遊ぼう」

2 単元の目標

身近にある物を使って、動くおもちゃをつくる活動を通して、よりよく動くように改良したり、もっと楽しくなるように遊び方やルールを工夫したりして、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなで楽しみながら遊びを創り出そうとすることができるようにする。

3 教材観

小学校学習指導要領(平成29年告示)生活編 生活科の内容(6)

身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

を受けて設定したものである。

この単元で取り上げる教材は、動くおもちゃづくりである。

本教材は、就学前や1年生時の遊びの経験を生かして、動くおもちゃづくりを通して、みんなと楽しみながら遊びを創り出すことのできる学習である。つくりながら遊ぶ過程で、「もっと〇〇したい」という願いの実現に向けて「見付ける、比べる、例える」などの分析的に考える学習活動をしたり、「試す、見通す、工夫する」などの創造的に考える学習活動をしたりすることができる。

今回は、「見通す」学習活動を充実させるために、「かんがえタイム」「やってみタイム」の時間を設定した。

「かんがえタイム」とは、児童が学習活動の中で、考えたことや気付いたことを絵や言葉で表現する時間である。田村は、前の学習活動の気付きが次の学習活動のきっかけとなると述べている¹。この「かんがえタイム」で気付いたことや考えたことを表現することで、次の学習活動への見通しをもつ起点になることをねらっている。

「やってみタイム」とは、前の学習活動の気付きや考えから次の学習活動の見通しを絵や言葉で表現する時間である。「見通し」について田村は、「解決に向けて進めていくプロセスイメージを明らかにすること」と「学習活動のゴールイメージを鮮明に描くこと」が必要だと記している²。この「やってみタイム」の中で、その子なりの自分のやりたいこと(ゴールイメージ)を描き、どのようにすればうまくいくか(プロセスイメージ)を明らかにすることをねらっている。

このように「見通す」学習活動を大切にすることで、他の「見付ける、比べる、たとえる、試す、工夫する」学習活動が充実し、考える力(分析的に考える力、創造的に考える力)が高まることを目指している。例えば、「びよんコップ」をつくらせている児童が、「輪ゴムを二重にすることで、おもちゃが高く跳ぶのではないか」という「見通し」をもとに、友達と遊びながらおもちゃを作る。その中で、友達の「びよんコップ」は、三重に輪ゴムを付けていることを「見付ける」。遊びながら「比べる」ことを通して、自分のおもちゃも三重にする「工夫」をし、「試す」ことを繰り返す。その結果、二重に輪ゴムを付けていた時よりも高く跳ぶようになり、「ウサギみたいに跳んだよ!」と「たとえる」ようになる。このように「見通す」学習活動から学習活動全体が充実することで、多くの気付きが生まれ、「もっと〇〇したい」という新たな「見通し」

につながっていく。この循環は、考えを広げ、深める過程と考える。それぞれの「タイム」で表現された子どもの思いや願いを教師が丁寧に見取り、適切な支援を行い、児童の次の活動へつなげていきたい。

さらに、気付いたことや考えたことを他者と伝え合い、対話することで気づきが確かになったり、気づきが関連付けられたりすることで、学びが深まるようにしたい。

また、お気に入りのおもちゃに自分自身で名前を付けることを通して、自分のおもちゃに愛着をもたせ、より意欲的に学習活動へ臨む姿に結び付けたい。

¹田村 学「見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の重視 生活科の授業における『見通す・振り返る』学習活動」初等教育資料 2014 4 月号

²田村 学「深い学び」東洋館出版社 2018

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近にある物を使って、動くおもちゃをつくる活動を通して、遊びやおもちゃをつくる面白さや、自然の不思議さに気付いている。	身近にある物を使って、動くおもちゃをつくる活動を通して、おもちゃがよりよく動くように改良したり、もっと楽しくなるように遊び方を変えたり するなど、工夫しておもちゃや遊びをつくっている。	身近にある物を使って、動くおもちゃをつくる活動を通して、みんなで楽しみながら遊びを創り出そうとしている。

5 単元の指導と評価の計画 (12 時間) ○ : 記録に残す評価 ● 指導に生かす評価

時	学習内容	評価の観点			主な評価規準【観点】 (評価方法)
		知	思	態	
第1時	【第2音楽室】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・うごくおもちゃであそぼう ・おもちゃのうごく「ヒミツ」をさがそう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・見本のおもちゃで遊ぶ。 ・どうしておもちゃが動くのか考え、話し合う。 (考える) ・自分の一番つくりたいおもちゃを決める。 ・どんな材料が必要か考える。 (見通す) 	●	●		【知】 身近にある物を使ったおもちゃの動きの面白さやその特徴に気付いている。 (発言、観察) 【思】 おもちゃの動く仕組みに着目しながら、見本のおもちゃで遊んでいる。 (観察)
第2時	【第2音楽室】 〈うごくおもちゃをつくろう①〉 ・つくったおもちゃで何をしたいか考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 遊びながら自分のお気に入りのうごくおもちゃをつくろう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びながら、自分のつくりたいうごくおもちゃをつくる。 ・教師と一緒に「かんがえタイム」「やってみタイム」を行う。 		●		【知】 材料やつくり方を変えることで、おもちゃの動きが変わることに気付いている。(発言、ワークシート②、観察) 【思】 つくりたいおもちゃを思い描きながら、使う材料を選んでいる。(観察)
第3時 第4時	【第2音楽室】 〈うごくおもちゃをつくろう②③〉 ・おもちゃづくりの続きをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> もっとよくおもちゃがうごくように話し合おう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃづくりを振り返り、うまくいったこ 	●			

	と、困っていることを話し合う。 ・「かんがえタイム」を行う。 ・「やってみタイム」を行う。				
第5時 (本時)	【第2音楽室】 〈もっとよくうごくおもちゃをつくろう①〉 遊びながらもつともつとよくうごくおもちゃをつくる「けんきゅう」をしよう ・同じおもちゃのグループで、交流しながらおもちゃを工夫する。 ・「かんがえタイム」を行う。 ・「やってみタイム」を行う。		○		【知】 自分がおもちゃに加えた工夫と、おもちゃの動きとの間には、一定の関係性があることに気付いている。 (発言、ワークシート②、観察) 【思】 実際に試したり、友達のおもちゃと比べたりしながら、おもちゃの動きを予測し、おもちゃを改良している。(ワークシート②③、観察)
第6時 第7時	【第2音楽室】 〈もっとよくうごくおもちゃをつくろう②③〉 遊びながらもつともつともつとよくうごくおもちゃをつくる「けんきゅう」をしよう ・同じおもちゃのグループやちがうおもちゃのグループで、交流しながらおもちゃを工夫する。 ・「かんがえタイム」を行う。 ・「やってみタイム」を行う。	○		●	【態】 自分のおもちゃをもっとよく動かしたいという思いをもち、繰り返しおもちゃを改良しようとしている。 (観察)
第8時 第9時	【第2音楽室】 〈みんなと楽しくあそぼう①②〉 遊びながらみんなが楽しめる遊び方やルールを考え、遊ぶじゅんぴをしよう ・みんな楽しく遊ぶ活動について話し合う。 ・みんな遊ぶ活動に向けて準備する。 ・「かんがえタイム」を行う。 ・「やってみタイム」を行う。		●		【知】 自分がルールや遊び方を工夫したことで、みんなと楽しく遊ぶことができるようになったことに気付いている。 (発言、ワークシート②、観察) 【思】 みんなと楽しく遊んでいる様子を思い描きながら、遊び方やルールを決めている。(ワークシート②③、観察) 【態】 みんなと遊びを創り出すことの面白さを実感し、これからも友達と一緒に遊びを創り出そうとしている。 (発言、観察)
第10時 第11時	【第2音楽室】 〈みんなと楽しくあそぼう③④〉 みんなで楽しく遊び、感想を伝え合おう ・みんなで楽しく遊ぶ。 ・遊んだ感想を付箋に書き、伝え合う。 ・「かんがえタイム」を行う。		○		
第12時	【第2音楽室】 〈みんなと楽しくあそぼう⑤〉 うごくおもちゃづくりやおもちゃを使った遊びについてふりかえろう ・これまでのおもちゃづくりやおもちゃを使った遊びを振り返り、交流する。	○		○	

6 本時について

(1)本時の目標

同じおもちゃのグループで、交流しながらおもちゃをつくることを通して、友達のおもちゃとの動きやつくり方、材料の違いを比べながら、自分のおもちゃを繰り返しつくり直すことができるようにする。

(2)本時の評価規準【思考・判断・表現】

友達のおもちゃとの動きやつくり方、材料の違いを比べながら、自分のおもちゃを繰り返しつくり直している。

(3)本時の判断基準【思考・判断・表現】

概ね満足できる姿 (B)	努力を要する児童への支援 (C)
友達のおもちゃとの動きやつくり方、材料の違いを比べながら、自分のおもちゃを繰り返しつくり直している。	<ul style="list-style-type: none">・動きに着目することに困っている児童には、教師がおもちゃを用いて、動きをゆっくり再現することで、おもちゃへの改良へつなげる。・手先を動かすことに困っている児童には、複雑な工程を児童の横で支えてあげることで、おもちゃの改良へつなげる。・材料の違いに気付くことに困っている児童には、一緒に材料の手触りや大きさなどの特徴を確認することで、おもちゃの改良へつなげる。

(4)本時の学習過程

	○学習内容・学習活動 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点	☆評価規準 (評価方法)
導入 5分	遊びながらもっともつとよくうごくおもちゃをつくる「けんきゅう」をしよう！		
	○前時の「やってみタイム」で書いた内容を確認する。 ○安全面について確認する。	・本時で行う活動を明確にするために、前時の「やってみタイム」で記述した内容を確認してから活動に取り組むようにする。 ・用具の使い方や使っていない時のきまり、相手への渡し方を確認する。 ・けがをしないようにするために、遊び方の留意点についても確認する。	
展開 30分	○同じおもちゃのグループで、交流しながらおもちゃを工夫する。 ・「とことこ車」の輪ゴムを、太い輪ゴムにしたら前よりも動くようになったよ ・「ころころころん」のおもりを重くしたら綺麗に回るようになったよ ・「ヨットカー」は、風を受ける容器を丸くすることで、風の力でより遠くへ進むようになったよ ・「めいろ」の磁石を弱い力の磁石に変えたらよりやりやすい「めいろ」になったよ ○片付けをする。	・次の活動の見通しにつながるようにするために、「気付き」が生まれやすい環境構成の工夫をする。例えば、さまざまな材料を用意することや広い場所を活動の場として設定すること、遊ぶコーナーとつくるコーナーを分けるなどである。 ・ケガをしないようにカッターなどの危険な物を使う時には、専用のコーナー内で行う。 ・「見通し」をもちながら学習を進めることができるように、活動中の児童に対して、次のような声掛けをする。 例)「前の自分のおもちゃと比べてどんなどころが変わったのかな」(振り返る) 「活動中に気付いたことはあるかな」(気付きの確認) 「次は何をするのかな」(思い描く) 「どうしたらうまくいくかな」(予想する)	☆友達のおもちゃとの動きやつくり方、材料の違いを比べながら、自分のおもちゃを繰り返しつくり直している。 (行動観察、作品) (思)
まとめ 10分	【次の活動への見通し】 ○「かんがえタイム」を行う。 学習活動を振り返り、活動中に考えたことや気付いたことをシートに記入する。 ・「びよんコップ」の輪ゴムを2つにしたら、より高く跳ぶようになったよ ・「パッチンジャンプ」の切れ込みの長さを短くしたら高く跳ぶようになったよ ○「やってみタイム」を行う。 次の時間にどの学習活動をしたいか決める。どのようにしたらうまくいくか予想も立てる。 ・「びよんコップ」の輪ゴムは2つにしたら、高く跳んだから、3つに増やしてより跳ぶように工夫したい！ ・「パッチンジャンプ」は、切れ込みを1cmくらいにしたらよく跳んだから、もっと切れ込みの長さを短くする工夫をしたい！	・具体的に書けるよう、おもちゃを手元に置いて書くようにする。	

※「予想される児童の反応」に出てくるおもちゃの名前は、東京書籍「あしたへジャンプ 新編 新しい生活 下」p.54,55「おもちゃ図かん」に出てくるおもちゃの名前を使用しています。

こんなうごくおもちゃが作りたい！

せっけい^ず図



◎つくりたいうごくおもちゃに^{なまえ}名前をつけよう！

◎どんな「ざいりょう」が^{かんが}ひつようか^か考えて、書こう！

ねん
年

くみ
組

ばん^{なまえ}
番名前

★かんがえタイム

がっ 月 にちなまえ
日名前

きょう かつどう まる
○今日やった活動に丸をつけよう!(いくつ○をつけてもよい)



みつける・くらべる・たとえる・ためす・くふうする・その他^た

まる かつどう かんが き か
○丸をつけた活動でおもちゃについて考えたことや気づいたことを書こう!

え ことば
(絵でも言葉でもいいです!)

★やってみタイム

がつ
月

にちなまえ
日名前

つぎ じかん なに
○次の時間は何をしますか。(絵でも言葉でもいいです)



じかん おも
○次の時間にすることはどうしたらうまくいきたいと思いますか。

おもちゃづくりやおもちゃ遊び^{あそ}をふりかえりましょう。

ねん 年 くみ 組 ばん 番
なまえ 名前



①おもちゃづくりやおもちゃ遊び^{あそ}の中^{なか}で、まだやっていないことでも「こうなるかも！」と『よそう』して、『ためす』ことや『くふうする』ことをしましたか。

はいそうです すこしそうです すこしちがいます いいえちがいます

えらんだわけは、

②おもちゃづくりやおもちゃ遊び^{あそ}の中^{なか}で、活動^{かつどう}の終^おわりに自分^{じぶん}の学^{がく}習^{しゅう}をふりかえり、次^{つぎ}の活^{かつ}動^{どう}で何^{なに}をするか自分^{じぶん}なりの『めあて（見^み通^{とお}し）』を考^{かん}えることがありましたか。

はいそうです すこしそうです すこしちがいます いいえちがいます

えらんだわけは、

③おもちゃづくりやおもちゃ遊び^{あそ}の中^{なか}で、友^{とも}達^{だち}の作^{つく}り方^{かた}や遊^{あそ}び方^{かた}を『くらべて』、自分^{じぶん}の考^{かん}えたことと、にているところやちがうところを『見^みつける』ことができましたか。

はいそうです すこしそうです すこしちがいます いいえちがいます

えらんだわけは、

--

④おもちゃづくりやおもちゃ遊びあそびの中で、自分じぶんが作つくっているものをほかのものなどに『たとえる』ことがありましたか？たとえば、とことこ車くるまの動きうごを「カメみたい」とたとえる など

はいそうです	すこしそうです	すこしちがいます	いいえちがいます
--------	---------	----------	----------

えらんだわけは、

⑤おもちゃづくりやおもちゃ遊びあそびの中で、自分じぶんが「できるようになったこと」や「がんばったこと」を書かきましょう。（「わけ」も書かきましょう。）

わたしがおもちゃづくりやおもちゃ遊び <small>あそび</small> の中で、「できるようになったこと」や「がんばった
こと」は、

せい かつ か がく しゅう せい かつ か がく しゅう
生活科の学習について教えてください。



ねん 年	くみ 組	ばん 番
なまえ 名前		

◎あなたのことについて、4つの「言葉」から、あてはまるところに、一つずつ「○」をつけましよう。

①「こんなことやりたい！」などの思いや「こうなってほしい！」などのねがいをもって生活科の学習をしていますか。

はいそうです	すこしそうです	すこしちがいます	いいえちがいます
--------	---------	----------	----------

②生活科の学習の中で、「これから何をするか」自分なりのめあてをもって取り組んでいますか。

はいそうです	すこしそうです	すこしちがいます	いいえちがいます
--------	---------	----------	----------

③生活科の学習の中で、まだやっていないことでも「こうなるかも！」と「よそう」して考えることがありますか。

はいそうです	すこしそうです	すこしちがいます	いいえちがいます
--------	---------	----------	----------

④生活科の学習の中で、活動の終わりに自分の学習をふりかえり、次の活動で何をするか自分なりのめあてを考えていますか。

はいそうです	すこしそうです	すこしちがいます	いいえちがいます
--------	---------	----------	----------

⑤生活科の学習の中で、友達のやり方を見て、自分の考え方と、にているところやちがうところを見つけることがありますか。

はいそうです	すこしそうです	すこしちがいます	いいえちがいます
--------	---------	----------	----------

⑥生活科の学習の中で、これまでの自分の学習したこととつなげて考えていますか。

はいそうです	すこしそうです	すこしちがいます	いいえちがいます
--------	---------	----------	----------

⑦生活科の学習をすすめる中で、自分が作っているものや育てているものなどをほかのものなどに

たとえることはありますか？たとえば、ミニトマトの花を「星みたい」とたとえるなど

はいそうです すこしそうです すこしちがいます いいえちがいます

⑧「これならうまくいくかも」と思っおもてアイデアをためたことがありますか。

はいそうです すこしそうです すこしちがいます いいえちがいます

⑨「もっとよくするには、どうしたらいいのだろう？」と考かんがえ、自分じぶんでくふうしたことはありますか。

はいそうです すこしそうです すこしちがいます いいえちがいます